

## ゼロコロナ終了直後の渡航を経験して

2023年1月12日、約1年半ぶりに上海に戻ってきた。当初、12月末に上海に戻る予定にしており、周りから聞きかじった集中隔離グッズを準備していた矢先に、1月8日から中国への入国者に対する集中隔離を撤廃するとのニュースが流れた。12月に入国すれば最後の隔離になると個人的には期待半分、行動制限の煩わしさ半分だったが、予想外に渡航48時間前のPCR検査で陽性結果が出てしまい、上海への渡航が1月8日以降に延びたため、幸か不幸か、最後の隔離を経験することはなかった。

二日後に渡航を控えた1月10日、突然、中国外務省が日本及び韓国から中国への渡航者に対するビザ発給を一時停止すると発表したとの速報ニュースが流れた。自分自身は12月中にビザを受領済だったので特段の影響はなかったが、私の周りにも年明けにビザ申請を予定していた人が少なからずおり、予定の変更を余儀なくされていた。

これまでは、現地に到着した後の集中隔離や渡航前の煩わしい手続きを嫌って多くの日本人が中国への出張を敬遠していたと思う。その隔離措置等がここ1、2か月で徐々に緩和・廃止されて、いよいよ人の往来が復活するかと期待したタイミングでビザ発給の一時停止の事態になってしまい、もはや何が起きても驚かないなといった気持ちで、12日の渡航を迎えた。

ところが、一転、上海の浦東国際空港に到着してみると、飛行機の検疫検査で1時間ほど機内に留め置かれたものの、その後は、拍子抜けをするくらいスムーズに入国することができた。白い防護服を着たスタッフは一人もおらず、また渡航前にアプリで記入していた入国申請記録の写真やPCR検査の陰性証明のコピーなどは、いず

れも提出や確認を求められることはなかった。入国審査のエリアにいる審査官達も、私のパスポートを確認しながらも、横にいる同僚と、間もなく迎える春節で帰省する際に持参するお土産について笑顔で話をしていた。

空港から自宅までタクシーで向かう途中、街中いたるところにPCRの簡易検査場が残っていたが人影は殆どなかった。ついこの間まで、少なくとも3日に1回はPCR検査を受けなければ地下鉄にも乗れず、連日多くの人が簡易検査場に列をなしていたのがもはや遠い昔の話になっている。

中国は間もなく春節を迎える。中国人にとって春節は遠くで暮らす家族や親戚が一同に会する最も重要なイベントであり、私の知り合いの中国人達も約3年ぶりの帰省だと嬉しそうに列車のチケットを購入した話をしてくれる。また上海市のレストランなどでも地方出身者のスタッフが早々に帰省して店内には人がまばらといった春節前のいつもの風景が戻ってきている。

中国国家统计局が17日に発表した2022年のGDPは前年比で実質3%であり、目標の5.5%には遠く及ばなかった。また若者の失業率が20%近くに達したとの報道もあり、ゼロコロナ政策の傷跡が大きいことは事実である。しかし、当の中国人達は長く続いた様々な制限から解放され、新しい一年を迎える喜びに心を弾ませているようにも見える。今年が中国にとって経済の一年になることは間違いない。現地の日系企業にとっても良い波及効果が出てくることを願ってやまない。

以上

具体的な事案に関するお問い合わせ ☒ メールアドレス : [info\\_china@ohebashi.com](mailto:info_china@ohebashi.com)[back to contents](#)

本ニュースレターの発行元は弁護士法人大江橋法律事務所です。弁護士法人大江橋法律事務所は、1981年に設立された日本の総合法律事務所です。東京、大阪、名古屋、海外は上海にオフィスを構えており、主に企業法務を中心とした法的サービスを提供しております。本ニュースレターの内容は、一般的な情報提供に止まるものであり、個別具体的なケースに関する法的アドバイスを想定したものではありません。本ニュースレターの内容につきましては、一切の責任を負わないものとさせていただきます。法律・裁判例に関する情報及びその対応等については本ニュースレターのみに依拠されるべきでなく、必要に応じて別途弁護士のアドバイスをお受け頂ければと存じます。